

## 1. 人が輝く地域社会の形成について

### 【北海道型地域構造の保持・形成】

- 進行する高齢化を考慮すると、車にだけ頼る仕組みを見直す必要があるが、公共交通の利便性も悪いのが実情。さらに公共交通は、地元の人向けのダイヤとなっており、観光客は利用しづらいという面がある。どちらにも対応できたら活性化に繋がるだろう。

### 【北海道の価値創造力の強化】

(人々を引きつける多様な場の創出)

- 退職者が生きがいを持って暮らせる地域づくりを進める必要がある。都市の高齢者を地域に移住させるだけでは地域の負担が大きくなることもあり、国全体でバランスを考えるべき。
- 地域の産業やイベント等を盛り上げるためには、外からの新鮮な人材の必要性を感じている。IターンやUターンする人を増やすためには、何よりも住宅の環境整備が必要。

(地域づくり人材の発掘・育成)

- 人と人のネットワークが大事である。SNSで簡単に繋がりを持てる社会になったが、対面でのコミュニケーションが重要。北海道価値創造パートナーシップ活動での人的つながりに期待している。また、地域の食文化や伝統文化を維持し守ることが、地域力を強くし、その地域で活躍する人を育てることに繋がる。この地域で育ったというアイデンティティを感じ育てる教育も必要。根っこがあったら、人は一度その町を出ても戻ってくる。
- 地域活性化の取組の立ち上げ時には、行政の支援も必要だが、事業を推進するためのエンジンの部分は民間が担うべき。行政と民間が互いに得意な分野を活かすことが重要。
- まちおこしを各地域で進めるためには、核となる人材が不足していると感じる。行政は、地元の大学や企業等を活用するということを考えるべき。

## 2. 世界に目を向けた産業の振興について

### 【農林水産業・食関連産業の振興】

(イノベーションによる農業の振興)

- 先日の関東・東北豪雨のような水害が北海道で発生した場合、農業生産の被害額は甚大である。強靱化の取組が必要。
- 地球温暖化は北海道の農業生産に有利に働く可能性がある。また、今後の国際情勢を考慮すると、食料自給率の向上は重要。
- 食糧危機はいつ起こるか分からない。救荒作物等も含めて北海道は食料基地として先導していくべきだと考える。

(「食」の高付加価値化)

- 重要な付加価値の一つに食の鮮度があげられる。その付加価値を消費者に届けるためには、道路網の高速ネットワーク整備が不可欠。
- 食の展開に当たっては、輸送コストが最大のボトルネック。付加価値を高めることで輸送コストに対応する必要がある。逆に外に打って出ずに、ここまで来て買いたいと思ってもらえるような、小さいけれどキラリと光るものを作るといった戦略があってもよいと思う。

#### **【世界水準の観光地の形成】**

(世界に通用する魅力ある観光地域づくり、観光旅行消費の一層の拡大)

- 観光については、一つの地域で宿泊やアトラクションを提供することを考えるのではなく、広域的なゾーンでパッケージ化することも必要。

### **3. 強靱で持続可能な国土の形成について**

#### **【持続可能な地域社会の形成】**

(再生可能エネルギーの更なる導入に向けた取組)

- 北海道の特徴としては、氷と雪の利活用というのは大体どこの地域でも可能。冷熱エネルギーとしての活用を進めてほしい。